



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2007.3.28 No. 30-28

発行:日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5-11-4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office30@alpajapan.org

62nd IFALPA Annual Conference, Dubrovnik 全体報告

3月16日~20日、アドリア海の真珠と呼ばれ、町全体が世界遺産である、クロアチア・ドブロブニクに於いて、IFALPA 総会が開催されました。〔全体総数 91 協会、実出席 49 協会(242名)、委任状 3 協会〕日本からは、IFALPA 本部役員である安藤真之機長初め、日乗連 Member 5 名が日本の乗員を代表し参加しました。この全体報告に続き、今年の IFALPA 総会で議論され、決定された各委員会の Topicsなどを順次お伝えしていきます。

JAL706 便高本孝一機長の挨拶に Standing Ovation

今回の IFALPA 総会では JAL706 便高本機長の完全無罪獲得の報告と、それまで多くの支援をしてくれた IFALPA に対し、お礼を伝えることが大きな目的でした。ALPA Japan から JAL706 便の事故の内容、無罪獲得までの過程を、スライドも交え手短かに説明し、その後高本機長がお礼の Speech を行いました。

検察の起訴から 5 年、事故発生から 10 年という長い間不屈の闘志で闘い続けた高本機長の Speech に強い感銘を受けたという多くの声が聞かれました。Speech 終了後会場全員が Standing Ovation でその功績を称え、拍手は長い間鳴り止みませんでした。

高本機長の無罪獲得はこれ以上ない結果で終結しましたが、我々の真の目的である、「事故における事故調査と刑事捜査の分離」については、今後更に強い姿勢で臨まなければなりません。

安藤真之機長 IFALPA 本部役員任期満了

2 期 4 年間の長きに亘り IFALPA 本部役員 (Executive Vice President, Membership & Regional) として活躍してこられた安藤真之機長は、IFALPA の構造改革によって、各 Region の代表が直接本部役員会に参加するようになったため、今回の総会でその任を終了することになりました。

最後の Speech では安藤機長の退任を惜しむ声も多く聞かれ、大きな拍手が送られました。Asia/Pacific Region としても、また、東洋人が IFALPA 本部役員からいなくなった、ということからも、大変残念と言わざるを得ません。

総会の冒頭、緊急動議の提案

総会開始後、全体会議の冒頭に「会長職への賃金補填」に関する Late Agenda (緊急動議) が提案されました。通常、総会の議案 (Agenda) は 12 月中に締め切られ、1 月の EVM (本部役員会) で内容を確認し、Final Agenda として各国に配信されます。従って各国は総会前に議題に目を通し、意見を纏める時間的余裕があるのですが、Late Agenda は、それらの手順を踏まずに総会の場に直接提案された議案です。

(裏に続く)



会長の賃金補填

2001年アメリカの同時多発テロ以来、米国や全体的な航空界の落ち込みと共に IFALPA の運営も苦難の連続であり、IFALPA 会長への責任も大きなものとなって来ました。会長職を行うことによって生じる、旅費、宿泊費、食費等は実費清算で IFALPA が負担していますが、Flight や会社業務から離れることによって生じる賃金の減収などは Home Association が補填しています。

Dennis Dolan (US ALPA) 会長は一年少し前に退職していますが、任期中の退職であるため退職後も US ALPA が活動保証を行い、実質 Full Time Job で会長職を続けて来ました。

今年は新会長選任の年ですが、今後弱小協会からも会長になれるように、IFALPA として会長の賃金補填を考えてはどうか、というのが今回の Late Agenda の内容です。

継続審議

全体会議で Late Agenda の検討が了承され、E Committee で詳しい検討が加えられました。IFALPA の体制を強固なものにする、ということからこの案そのものに対する反対はないものの、余りに急であり、その額や今後の IFALPA 会計に与える影響が十分に検討できない、ということから、来年の総会への再提出を考え、5月の PWG (Presidential Working Group) と、秋の A&F (Administration & Finance) Committee で詳しく検討することになりました。

Japan ALPA Scholarship Fund €3,170 の増加

1997年、日航乗員以外の日乗連の乗員が IFALPA に加盟した際、日乗連の IFALPA 会費分で設立された Japan ALPA Scholarship Fund (設立当初 2,500 ポンド) は、弱小協会の Member が事故調査などの技術力を向上するための基金として使われて来ました。今までに3名が事故調査研修コースを受講し、基金が減ってきましたが、数年前から IFALPA 総会中に行なわれる Gala Dinner において Lotto (くじ引き) などでの売り上げを Japan ALPA Scholarship Fund に蓄えるようになりました。今年は€3,170 と、過去最高の売り上げとなりました。総額約 6,700 ポンドとなり、弱小協会の今後の技術力向上に貢献する事が大いに期待できます。

Asia/Pacific Region, RVP NOP に石山勉機長選任

Asia/Pacific 地区の RVP NOP (Regional Vice President, North Pacific) に石山勉機長が選任されました。日本、韓国、中国、香港、モンゴルに関連した ICAO の会議、それぞれの国が持つ問題などを担当することが任務であり、当面中国が提案している Metric RVSM の問題が急務であり、また、中国 ALPA の会費徴収の問題などが焦点となります。

その他、今回の総会選挙で新しく選任された IFALPA 本部役員です。

IFALPA 会長 : Carlos Limon (Mexico)

Deputy President : Paul Rice (U.S.A)

EVP Technical Standard : Richard Woodward (New Zealand)

EVP Regional, NAM : Dan Adamus (Canada)